

小項目ごとの検証・確認における論点整理

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院

項目 No.	H25 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
01	<p>(1) 高度医療機器の計画的な更新・整備</p> <p>高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、中期目標の期間における更新及び整備計画を策定し、高度医療機器の計画的な更新・整備を進める。</p> <p>医療機器の整備及び更新に当たっては、稼働率や収支の予測を十分に行った上で進めるとともに、リース等を含めた最適な導入形態を検討する。</p>	<p>高額医療機器の更新実績</p> <p>○飛騨南部地域における救急医療の基幹病院として急性期医療の診断等に活用するため、MRI(超電導磁気共鳴画像診断装置1.5T)、内視鏡ビデオシステム、X-TV透視診断装置、人工透析用逆浸透精製水システム(RO装置)、内視鏡画像ファイリングシステム、生体情報管理システムを更新した。</p> <p>◆購入価格・更新(補充)時期</p> <p>MRI(超電導磁気共鳴画像診断装置1.5T) 115,778千円 平成26年3月</p> <p>内視鏡ビデオシステム 13,965千円 平成25年8月</p> <p>X-TV透視診断装置(設置H26/3) 20,948千円 平成25年10月</p> <p>人工透析用逆浸透精製水システム 12,816千円 平成26年3月</p> <p>内視鏡画像ファイリングシステム 19,215千円 平成26年3月</p> <p>生体情報管理システム 15,876千円 平成26年3月</p> <p>◆機器更新による効果</p> <p>MRI(超電導磁気共鳴画像診断装置1.5T)、内視鏡ビデオシステム、X-TV透視診断装置の更新により高画質で鮮明な画像が得られることから診断能力の向上が図られた。</p> <p>内視鏡画像ファイリングシステム、生体情報管理シ</p>	IV	<p>評価の検討</p> <p>IV→III</p> <p>高度医療機器を大幅に整備したものの、年度計画を上回ったとはいえない。</p> <p>IVのまま</p> <p>高度医療機器を大幅に整備しており、年度計画を上回る整備ができたと評価できる。</p>	<p>「IV」</p> <p>新病院の完成に伴い、高度医療機器が大幅に整備されたと評価できる。今後、効率的に活用できるよう努められたい。</p>

項目 No.	H25 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																							
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																																						
		<p>システムの更新により、大量の画像データ取込・蓄積が可能となり、より具体的な情報を患者にも提供できるようになった。また、患者検査情報のインポート機能が追加され業務の一層の省力化が図られた。</p> <p>更新・整備を実施した機器の稼働件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>整備</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃部健診用 デジタルX線 システム</td> <td>22 年 度</td> <td>0</td> <td>2,272</td> <td>2,294</td> <td>2,372</td> </tr> <tr> <td>16 列型マルチ スライス X 線 CT 装置</td> <td>23 年 度</td> <td>—</td> <td>47</td> <td>70</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>超音波画像 診断装置</td> <td>24 年 度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,225</td> <td>3,567</td> </tr> <tr> <td>デジタル式乳 房 X 線診断 装置</td> <td>24 年 度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>182</td> <td>661</td> </tr> <tr> <td>内視鏡ビデ オシステム</td> <td>25 年 度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>777</td> </tr> <tr> <td>X-TV 透視 診断装置</td> <td>25 年 度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>主な検査機器の稼働実績件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目・年度</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">MR (1 台)</td> <td>入院</td> <td>706</td> <td>735</td> <td>636</td> <td>579</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>2,492</td> <td>2,444</td> <td>2,420</td> <td>2,834</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">CT (2 台)</td> <td>入院</td> <td>2,332</td> <td>1,878</td> <td>1,771</td> <td>1,732</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>6,529</td> <td>6,457</td> <td>6,435</td> <td>7,005</td> </tr> </tbody> </table>		整備	22年度	23年度	24年度	25年度	胃部健診用 デジタルX線 システム	22 年 度	0	2,272	2,294	2,372	16 列型マルチ スライス X 線 CT 装置	23 年 度	—	47	70	142	超音波画像 診断装置	24 年 度	—	—	1,225	3,567	デジタル式乳 房 X 線診断 装置	24 年 度	—	—	182	661	内視鏡ビデ オシステム	25 年 度	—	—	—	777	X-TV 透視 診断装置	25 年 度	—	—	—	—	項目・年度		H22	H23	H24	H25	MR (1 台)	入院	706	735	636	579	外来	2,492	2,444	2,420	2,834	CT (2 台)	入院	2,332	1,878	1,771	1,732	外来	6,529	6,457	6,435	7,005			
	整備	22年度	23年度	24年度	25年度																																																																						
胃部健診用 デジタルX線 システム	22 年 度	0	2,272	2,294	2,372																																																																						
16 列型マルチ スライス X 線 CT 装置	23 年 度	—	47	70	142																																																																						
超音波画像 診断装置	24 年 度	—	—	1,225	3,567																																																																						
デジタル式乳 房 X 線診断 装置	24 年 度	—	—	182	661																																																																						
内視鏡ビデ オシステム	25 年 度	—	—	—	777																																																																						
X-TV 透視 診断装置	25 年 度	—	—	—	—																																																																						
項目・年度		H22	H23	H24	H25																																																																						
MR (1 台)	入院	706	735	636	579																																																																						
	外来	2,492	2,444	2,420	2,834																																																																						
CT (2 台)	入院	2,332	1,878	1,771	1,732																																																																						
	外来	6,529	6,457	6,435	7,005																																																																						
06	<p>(6) EBMの推進 学会の診療ガイドライン等に基づいたクリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）の積極的な活用に取り組むことにより、医療の質の改善、向上及び標準化を図り、科学的根拠に基づいた医療（EBM：Evidence Based Medicine）を提供する。 また、電子カルテを中心とする医療総合情報</p>	<p>高齢の入院患者・認知症の入院患者が多いなど、クリニカルパスの作成・適用が難しい分野もあるが、パスの活用に取り組んだ。</p> <p>◆産婦人科領域 産婦人科医の交代（H24年1月）を契機に、パス内容の確認、変更を随時行い改善している。</p> <p>また、電子カルテ運用においては、診療の標準化を</p>	II		産婦人科のクリニカルパスの使用数は増加傾向にあるものの、他科の使用数が増加しておらず、活用に向けて努力されたい。																																																																						

項目 No.	H25 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																							
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																						
	システムをより有効に活用し、医療水準の向上及び診療内容の標準化を進める。	<p>図るためのシステム設定を必要に応じ実施し、医療情報システムの有効活用に努めた。</p> <p>今後、地域包括ケア病棟の利用を推進することで、7：1病棟の平均在院日数の短縮を図り、また、介護施設を含む在宅復帰を支援するため、クリニカルパスの見直し、改善、作成に取り組んでいく。</p> <p>クリニカルインディケータについては、可能などころから順次公表するよう検討していく。</p> <p>診療科別クリニカルパスの内訳(H25)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>診療科名</th> <th>パス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産婦人科</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>内科</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>クリニカルパス種類数・使用数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>産婦人科</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類数</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>使用数</td> <td>174</td> <td>168</td> <td>258</td> </tr> <tr> <td>適用率</td> <td>95.4</td> <td>99.4</td> <td>98.8</td> </tr> <tr> <th>内科</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>使用数</td> <td></td> <td>105</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>適用率</td> <td></td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	診療科名	パス数	産婦人科	22	内科	3	産婦人科	H23	H24	H25	種類数	20	20	22	使用数	174	168	258	適用率	95.4	99.4	98.8	内科	H23	H24	H25	種類数	0	2	3	使用数		105	55	適用率		100.0	100.0			
診療科名	パス数																																										
産婦人科	22																																										
内科	3																																										
産婦人科	H23	H24	H25																																								
種類数	20	20	22																																								
使用数	174	168	258																																								
適用率	95.4	99.4	98.8																																								
内科	H23	H24	H25																																								
種類数	0	2	3																																								
使用数		105	55																																								
適用率		100.0	100.0																																								
11	<p>(3) 医療情報に関する相談体制の整備 苦情等へ迅速な対応ができる組織体制を整備する。 また、接遇研修会を開催するなど職員の接遇意識向上にも努める。</p>	<p>◆ 医療情報に関する相談・苦情ついて、問題事象への発展が懸念されるものは情報を速やかに幹部へ報告することを徹底し、組織として初期段階での対応が行えるように取り組んだ。</p> <p>また、更に相談がしやすくなるように 25 年 4 月から医療相談室を設置し、社会福祉士 2 名看護師 1 名の 3 名の職員を配置した。さらに 6 月 1 日からは「患者サポート体制充実加算」の施設基準を取得した。</p>	IV		<p>医療相談室を設置するなど、相談体制の充実は評価できる。地方にある医療機関として、最も大切な人間関係の基本に努力しており、今後が期待できる。</p>																																						

項目 No.	H25 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)																
		相談件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療福祉 相談</td> <td>912 件</td> <td>1,716 件</td> <td>1,603 件</td> <td>2,038 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ 接遇マナー5原則(1表情、2態度、3挨拶、4身だしなみ、5言葉遣い)をもとに2ヶ月毎にスローガンを作成し、各部署にポスターを配布のうえ、その都度アンケートを行い達成度の評価をした。</p>		22年度	23年度	24年度	25年度	医療福祉 相談	912 件	1,716 件	1,603 件	2,038 件									
	22年度	23年度	24年度	25年度																	
医療福祉 相談	912 件	1,716 件	1,603 件	2,038 件																	
19	(3) 地域の介護・福祉機関との連携の強化 地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の積極的な提供や、退院時カンファレンスの取り組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスの提供に努める。	○ ケア会議の実施 患者が退院するにあたり、患者・家族の方を交えて地域サービス担当者、院内各職種間で患者の情報を共有してケアの継続に繋げた。 会議開催件数は昨年度より増加している。病棟看護師からの会議開催の依頼が増加し連携に向けた意識が向上している。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77件</td> <td>56件</td> <td>90件</td> <td>104件</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、皮膚・排出ケア認定看護師による褥瘡ハイリスク患者ケア加算を H25.2.1 から算定、適切な褥瘡予防・総合的な褥瘡対策を継続している。 褥瘡ハイリスク患者ケア加算：H25 年度 348 件</p> ○ 継続看護連絡会議の実施 退院後も外来通院が必要な患者については、外来受診時まで病棟看護師と外来看護師間で患者の情報を共有して必要なケアが継続できるように会議を開催した。 会議の開催件数は昨年度より増加しており、病棟担当者と外来担当者間で会議の開催が必要な患者や会議開催に関する取り決め等について検討を重ねている。 ・ 継続看護連絡会議 <table border="1"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>47件</td> <td>56件</td> <td>77件</td> <td>128件</td> </tr> </tbody> </table>	22年度	23年度	24年度	25年度	77件	56件	90件	104件	22年度	23年度	24年度	25年度	47件	56件	77件	128件	IV		CKD(慢性腎臓病) 予防に対する取り組みは、全国的にみても地方レベルでの取り組みは少なく、地方都市での連携強化に努力されており、高く評価できる。
22年度	23年度	24年度	25年度																		
77件	56件	90件	104件																		
22年度	23年度	24年度	25年度																		
47件	56件	77件	128件																		
		○ CKD(慢性腎臓病) 予防に取り組む地域との連携																			

項目 No.	H25 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																				
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																			
		<p>平成 19 年度から下呂市ではじまった新規人工透析予防のための取り組みに当初から関わり、地域における病診連携の二次医療機関となっている。その後、下呂市のパスが岐阜県のCKDパスとして採用され、県医師会とともに地域県民のために活用されている。</p> <p>今後も下呂市とCKDについては糖尿病対策と合わせて対策を進めていく。</p> <p>平成 25 年には、下呂市医師会、下呂市歯科医師会、下呂市薬剤師会の共催による研究会が開催されたほか、岐阜県慢性腎臓病対策協議会、岐阜県腎臓病協議会、岐阜県透析医会の共催による公開講座が開催された。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下呂病診連携研究会 【開催日】6月20日 【内 容】CKDと連携パスについて ほか 慢性腎臓病(CKD)について学ぶ市民公開講座 【開催日】11月17日 【内 容】CKDの自己管理 ほか 																																																						
32	<p>(2) 医師不足の地域の医療機関やへき地医療機関への診療支援など人的支援</p> <p>飛騨及び中濃医療圏のへき地診療所や医師不足地域の医療機関への診療支援などの人的支援を行うとともに、高度医療機器の共同利用を進める。</p>	<p>◆ へき地・医師不足診療所等への医師出向による人の支援状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>出向先</th> <th>診 療 科</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下呂市立 金山病院</td> <td>内科</td> <td>延 47日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">下呂市立 小坂診療 所</td> <td>内科</td> <td>延 11日</td> <td>延 194日</td> <td>延 38日</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>産婦 人科</td> <td>延 33日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">東白川村 国保診療 所</td> <td>外科</td> <td>延 12日</td> <td>延 12日</td> <td>延 12日</td> <td>延 12日</td> </tr> <tr> <td>整形 外科</td> <td>延 12日</td> <td>延 12日</td> <td>延 12日</td> <td>延 12日</td> </tr> <tr> <td>東白川村 母子健康 センター</td> <td>産婦 人科</td> <td>延 24日</td> <td>延 8日</td> <td>延 22日</td> <td>延 22日</td> </tr> <tr> <td>高山市国 保久々野 診療所</td> <td>内科</td> <td>延 44日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延 21日</td> </tr> <tr> <td>高山市国 保朝日診 療所</td> <td>内科</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延 20日</td> </tr> </tbody> </table>	出向先	診 療 科	22年度	23年度	24年度	25年度	下呂市立 金山病院	内科	延 47日	—	—	—	下呂市立 小坂診療 所	内科	延 11日	延 194日	延 38日	—	産婦 人科	延 33日	—	—	—	東白川村 国保診療 所	外科	延 12日	延 12日	延 12日	延 12日	整形 外科	延 12日	延 12日	延 12日	延 12日	東白川村 母子健康 センター	産婦 人科	延 24日	延 8日	延 22日	延 22日	高山市国 保久々野 診療所	内科	延 44日	—	—	延 21日	高山市国 保朝日診 療所	内科	—	—	—	延 20日	III	<p>医師不足の中でも飛騨及び中濃医療圏へ人的支援を行うなど、へき地医療に貢献している。さらに医師獲得へ努力されたい。</p>
出向先	診 療 科	22年度	23年度	24年度	25年度																																																			
下呂市立 金山病院	内科	延 47日	—	—	—																																																			
下呂市立 小坂診療 所	内科	延 11日	延 194日	延 38日	—																																																			
	産婦 人科	延 33日	—	—	—																																																			
東白川村 国保診療 所	外科	延 12日	延 12日	延 12日	延 12日																																																			
	整形 外科	延 12日	延 12日	延 12日	延 12日																																																			
東白川村 母子健康 センター	産婦 人科	延 24日	延 8日	延 22日	延 22日																																																			
高山市国 保久々野 診療所	内科	延 44日	—	—	延 21日																																																			
高山市国 保朝日診 療所	内科	—	—	—	延 20日																																																			

項目 No.	H25 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項					自己 評価	論 点	検 証 (案)																																														
		<table border="1"> <tr> <td>高山市国保高根診療所</td> <td>内科</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延45日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">関市国保上之保診療所</td> <td>内科</td> <td>延1日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>延1日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>郡上市国保和良診療所</td> <td>内科</td> <td>延2日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>延187日</td> <td>延226日</td> <td>延84日</td> <td>延132日</td> </tr> </table> <p>◆ 当院医療機器の地域開業医等の利用状況</p> <table border="1"> <tr> <th>医療機器</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>134件</td> <td>117件</td> <td>138件</td> <td>186件</td> </tr> <tr> <td>CT</td> <td>6件</td> <td>7件</td> <td>12件</td> <td>16件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>140件</td> <td>124件</td> <td>150件</td> <td>202件</td> </tr> </table>	高山市国保高根診療所	内科	—	—	—	延45日	関市国保上之保診療所	内科	延1日	—	—	—	整形外科	延1日	—	—	—	郡上市国保和良診療所	内科	延2日	—	—	—	合計		延187日	延226日	延84日	延132日	医療機器	22年度	23年度	24年度	25年度	MRI	134件	117件	138件	186件	CT	6件	7件	12件	16件	計	140件	124件	150件	202件				
高山市国保高根診療所	内科	—	—	—	延45日																																																		
関市国保上之保診療所	内科	延1日	—	—	—																																																		
	整形外科	延1日	—	—	—																																																		
郡上市国保和良診療所	内科	延2日	—	—	—																																																		
合計		延187日	延226日	延84日	延132日																																																		
医療機器	22年度	23年度	24年度	25年度																																																			
MRI	134件	117件	138件	186件																																																			
CT	6件	7件	12件	16件																																																			
計	140件	124件	150件	202件																																																			
40	<p>(1) 弾力的運用の実施</p> <p>医療需要の変化や患者の動向に迅速に対応するため、診療科の変更や医師・看護師等の配置の弾力的運用に努める。特に看護師については業務量に応じ柔軟な職員配置を行うとともに、適材適所の人事に努める。</p>	<p>【柔軟な勤務配置】</p> <p>看護部では状況に応じてタイムリーな支援体制を構築するように入退院患者数や看護必要度の把握と支援状況の周知を行った。それによりスタッフの支援に対する意識も高まり、支援を受ける側は支援者が支援しやすいように支援業務を明確にした。また、業務が煩雑なところを支援することが定着してきた。</p> <p>全部署からの支援時間数</p> <table border="1"> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> <tr> <td>—</td> <td>3,075.6</td> <td>6,275.8</td> <td>18,283.4</td> </tr> </table> <p>長日勤者にアンケート調査を行い、休憩時間が時間どおりに取得できないという結果に対応するため、非常勤職員の業務の見直しを各部署検討し、休憩時間の確保に取り組んだ。また、入院の多い時間帯に人員配置をできるよう検討をした。</p>	22年度	23年度	24年度	25年度	—	3,075.6	6,275.8	18,283.4	III	<p>評価の検討</p> <p>III→IV</p> <p>看護部において支援時間数が大幅に増加しており、煩雑な業務に対する支援が柔軟に適用されている。</p> <p>IIIのまま</p> <p>看護部において、煩雑な業務に対する支援が柔軟に適用されているが、年度計画の範囲内である。</p>	<p>「III」</p> <p>看護部において、煩雑な業務に対する支援が柔軟に適用されているが、年度計画の範囲内である。</p>																																										
22年度	23年度	24年度	25年度																																																				
—	3,075.6	6,275.8	18,283.4																																																				
43	<p>職員の勤務意欲を高めるため、職員の実績や能力を職員の給与に反映した公正で客観的な人事評価制度の構築に向けて検討を行う。</p>	<p>意欲をもって働くことができる人事評価制度の構築に向けて、平成25年度も導入に向けて検討を行ってきた。</p> <p>また、職員の実績や資格等に対しても、再評価し、特別昇給により職員のモチベーションが下がらないように行った。</p>	II		<p>現中期計画期間中に、公正で客観的な人事制度が構築されるよう努力されたい。</p>																																																		

項目 No.	H25 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)															
48	(3) 施設基準の取得 診療報酬制度については、入院基本料の診療報酬最高額である7対1看護体制を維持するとともに、非常勤医師の常勤化や経験年数の長い医師の確保等により新たな施設基準の取得を目指す。	入院基本料7対1看護体制の維持とともに平成25年度に次の施設基準を届出・算定開始した。肝炎インターフェロン治療計画料、検体検査管理加算Ⅳについては、医師が確保できず辞退となった、引き続き取得に努める。 冠動脈CT撮影加算やハイリスク分娩管理加算については、常勤医師が確保できず叶わなかった。 基本 ◆医師事務作業補助体制加算(50対1) H25.4.1取得 ◆患者サポート体制充実加算 H25.6.1取得 特掲 ◆がん性疼痛緩和指導管理料 H25.6.1取得 ◆検体検査管理加算(Ⅱ) H25.6.1取得(※Ⅳから下位変更)	Ⅲ		医師確保に引き続き努力され、新たな施設基準の取得を目指されたい。															
52	「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標の期間の最終年度までに、経常収支比率を100%以上及び職員給与費対医業収益比率を60%以下とすることを目指す。	【経常収支比率】 年度計画の設定比率 100.4%に対して決算では95.9%と4.5ポイント計画を下回った。 【職員給与費対医業収益比率】 年度計画における比率 71.1%に対し、決算では79.2%と8.1ポイント増加した。医師確保や看護体制の維持のために必要な人件費に対し、それ見合う収益が得られなかったことが増加の要因となっている。来期以降も引き続き経常収支比率 100%以上、職員給与費対医業収益比率 60%以下を目指して経営努力を続けていく。 経常収支比率・職員給与費対医業収益比率 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支</td> <td>95.0%</td> <td>93.5%</td> <td>94.4%</td> <td>95.9%</td> </tr> <tr> <td>職員給与費</td> <td>71.4%</td> <td>74.4%</td> <td>79.2%</td> <td>79.2%</td> </tr> </tbody> </table>		22年度	23年度	24年度	25年度	経常収支	95.0%	93.5%	94.4%	95.9%	職員給与費	71.4%	74.4%	79.2%	79.2%	Ⅱ		赤字改善に向けた経営方針・経営計画を策定し、中期計画の達成に努力されたい。
	22年度	23年度	24年度	25年度																
経常収支	95.0%	93.5%	94.4%	95.9%																
職員給与費	71.4%	74.4%	79.2%	79.2%																
60	(2) 新病院の建設 新病院建設に当たっては、法人の運営により建	新病院の施設整備計画に則り調整した実施設計の成果を受けて、平成26年度の開院を目指して、用地取	Ⅳ		新病院を予定どおり完成できたことは高く評価できる。今後、新病院としてのメリットを活かした															

項目 No.	H25 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
	<p>設費の償還が可能となるよう十分留意するとともに、次の点に留意した施設整備とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震性能の確保に加え、医療を提供する場としての安全性、機能性及び効率的な運営が可能な部門構成や建築形態 ・患者をはじめ誰もが利用しやすいデザインを基本とし、患者のプライバシーとアメニティの確保や働きやすい職場環境に配慮した建築形態 ・経営上の負担を軽減するため、建設及び維持管理コストの低減、エネルギー部門の変更・拡張、将来の医療制度の変更、医療機器更新などに柔軟に対応できる建築形態 <p>また、新病院では特に次の機能を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 「地域医療研究研修センター」の拡充 イ へき地医療の機能強化 ウ 高度急性期医療の機能強化 エ 災害対応機能の充実 オ 終末期医療（入院・在宅）の実施 カ 医療従事者の確保対策 キ 地域連携機能の強化 <p>平成25年度は病院の建設工事（施設、設備）を実施する。</p>	<p>得、総合評価方式による新病院整備建設工事を発注したほか、医療機器整備等に向けた手続を進め、工期内に完成した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 用地取得 <ul style="list-style-type: none"> ・取得面積 32,263.78m² ・取得年月日 平成24年4月5日 ・取得価格 2,200,793,804円 2 新病院整備建設工事 <ul style="list-style-type: none"> ・実施工期 H24.4.26～H26.3.20 ・契約金額 5,341,875,000円 (うち追加変更 23,767,800円) 3 新病院整備建設工事監理委託業務 <ul style="list-style-type: none"> ・契約工期 H24.4.26～H26.3.20 ・契約金額 57,750,000円 4 医療機器等整備支援コンサルティング委託 <ul style="list-style-type: none"> ・契約工期 H24.7.1～H26.5.31 ・契約金額 12,757,500円 5 機器備品等整備事業(追加) <ul style="list-style-type: none"> ・契約工期 H25.7.1～H26.3.20 ・契約金額 358,491,000円 6 電話設備設置事業(追加) <ul style="list-style-type: none"> ・契約工期 H25.4.30～H26.3.20 ・契約金額 28,035,000円 7 その他(追加) <ul style="list-style-type: none"> 乗り入れ改良工事 <ul style="list-style-type: none"> ・契約工期 H26.1.24～H26.3.20 ・契約金額 5,334,000円 新築移転工事都市計画法完了業務・機器備品整備業務委託 <ul style="list-style-type: none"> ・契約工期 H25.4.8～H26.3.20 ・契約金額 13,558,104円 			<p>病院運営を期待したい。</p>

項目 No.	H25 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証												
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項		自己 評価	論 点	検 証 (案)										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備の 内容</th> <th>実績 額(単 位:百 万円)</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新病院施設、 医療機器整備</td> <td rowspan="3">5,378</td> <td>設立団体からの 長期借入金等</td> <td>2,128</td> </tr> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>3,239</td> </tr> <tr> <td>自主財源</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備の 内容	実績 額(単 位:百 万円)	財源	新病院施設、 医療機器整備	5,378	設立団体からの 長期借入金等	2,128	国庫補助金	3,239	自主財源	11			
施設及び設備の 内容	実績 額(単 位:百 万円)	財源														
新病院施設、 医療機器整備	5,378	設立団体からの 長期借入金等	2,128													
		国庫補助金	3,239													
		自主財源	11													